



和光市議会議員

2023年 新春号

# 菅原 すがわら 満 議会報告

〒351-0111 和光市下新倉 3-14-21 / Tel&Fax048-462-8180 / nehemiah@pssion.biglobe.ne.jp

## 『第三小学校用地取得の増額予算を可決』

令和4年12月定例会議会が、11月24日から12月13日までの日程で開催され、諮問（人権擁護委員の推薦）1件を同意、提出された議案17件をすべてを全会一致で可決しました。補正予算では、第三小学校用地取得費計上（3億2,407万8千円）や減額補正などで、約4億1,781万円の歳入歳出増、予算総額331億6,523万7千円となりました。第三小学校の建替えに向けて借地の解消が進みました。残りの国有地部分の購入を進めて、建替えが進むことを期待します。

### ◇◇◇主な議案◇◇◇

#### 職員の定数増と定年延長に関する条例を可決

・現在、類似の他団体より定数は低い水準です。

- ◇市長部局 354人⇒387人
- ◇教育委員会 56人⇒58人
- ◇上下水道部 24人⇒28人※

※上下水道部は、上下水道部の条例を改正。  
 ※令和5年度から2年で1歳ずつ定年を引上げ。

【賛成】福祉における相談事業、許認可やその検査や指導、専門性の確保、計画行政、業務量増への対応などから増員は必要と考え賛成しました。

◆国では、地方公共団体で導入している福祉などの基幹システムについて2025年度に標準準拠システムへの移行を目指すとしています。◆定数増を決めましたが、定年延長もあり将来に向けた人員構成、専門的な知識や経験の継承、システム化による効率化の確保が必要と考えます。◆しかし、福祉などの相談支援では、個々の状況の把握や対応が必要であり、また、組織の在り方や人材育成も重要です。◆定年延長では、役職定年や給与水準の引下げなども併せて導入されます。

## 12月議会の一般質問から

### ◇◇◇医療的ケア児・家族への支援◇◇◇

**質問：**医療的ケア・者の把握は、どのようになっているのか伺います。

**答弁（保健福祉部長）：**市として統計的に正確な把握はしていないが、障害福祉サービスの支給決定などにより把握できる人数は、令和4年11月現在の医療的ケア児は、14人です。

**質問：**和光市の計画によれば、居宅訪問型児童発達支援に関して、「市内で利用対象となる児童は約5人程度おり、市内に事業所がないことが課題になっています。令和3年度以降、市内児童発達支援事業所と協議を行い、事業所の基盤整備を検討していきます。」とある。事業所との調整、人材の確保などの課題もあるが、自治体の中には居宅訪問型保育事業に取り組んでいるところもあると聞く。他自治体の取組状況を把握し、医療的ケア児や家族支援に向けての参考としてはどうか伺います。

**答弁（保健福祉部長）：**指摘のとおり、居宅訪問型保育事業の実現のためには、各種調整が必要となりますので、他の先進自治体の実施状況の情報を収集し、実現に向けて取り組んでまいります。

▶医療的ケア児及びその家族への支援法が令和3年に施行されており、今後の取組みが求められます。

## ◇◇◇市内循環バスの見直し状況◇◇◇

**質問**：乗務員の確保が難しいと聞いている。最近の運転免許所持者は、大型2種免許所持者は、年々減ってきている状況と思う。自動運転の技術の進展に合わせての実証、具体化が各地で行われてきており、和光市として具体化に取り組んでいくことが必要と認識をするが伺う。

**答弁**（建設部審議監）：乗務員の確保は、運転免許の保有者が減少してきていることで、人材確保が困難になってきていると事業者から伺っています。また、利便性が高い公共交通を、将来にわたって維持するためにも、まずは、外環側道を含む北側で、自動運転技術を本格社会実装してまいりたいと考えています。その後、その知見を基に、自動運転技術を市内全域に展開して、全ての市民の移動の自由を目指してまいりたいと考えています。

**質問**：循環バスの運行において、始発から最終までの時間を見ると乗務員の拘束時間が長くなること、さらに、渋滞などで運行に乱れがでると休憩時間が取りにくくなるのではと認識します。乗務員の働き方改革という点からの対策が必要と考え伺います。

**答弁**（建設部審議監）：乗務員の休憩時間や拘束時間についても、運行事業者との調整やヒアリングを行っています。今後の時刻表の設定に際して、利用者の安全確保を行うためにも、乗務員の休憩などを考慮しながら作成してまいりたいと考えています。

## ◇◇◇小学校35人学級への対応◇◇◇

**質問**：和光市では、国に先駆けて5年生までの35人学級に取り組んでいます。今後6年生までの35人学級となった場合の教室の確保をどう見ているのか。また、教員の確保が必要となるが、併せてこの状況について伺います。

**答弁**（教育長）：増加する学校の教室の確保では、普通教室が不足した場合、普通教室として転用が可能な特別教室などを転用する予定です。教員については、市のホームページなどで募集、選考し、任用していきます。また、平成26年度より、3、4年生の35人学級を導入、確かな学力の定着など成果が表れてきています。今年度は、4、5学年を対象に、市内4校で35人学級を実施しています。令和6年度の対象は6年生となりますが、35人学級ではなく、教科担任制充実のための教員配置への移行を検討しています。

→国では、令和3年度2年生から1年毎に対象学年を上げていきます。和光市では、前倒しで5年生で35人学級を実施、教員は市独自に任用しています。学年児童数70人ならば2学級、学年児童数71人ならば3学級となります。

（写真：令和4年10月30日BOSAIフェア2022in和光でのコマ

★和光市BOSAIまちづくり伝道師として『家具転倒防止間違い探し』を担当。



## すがわら満のプロフィール

**現職など**：和光市議会 総務環境常任委員会委員／朝霞和光資源循環組合議会議員

(公財)富士社会教育センター客員研究員／朝霞自衛隊協力会会員／自衛隊体育学校後援会会員

**経歴など**：

- 1958年埼玉県秩父市生まれ
- 成蹊大学法学部卒
- 1991年和光市議会議員初当選（現在8期）
- 1999年山梨学院大学大学院修士課程修了
- 和光市議会議員／●和光市監査委員
- 朝霞地区一部事務組合議会議員
- 民社党、民主党、国民民主党を経て、無所属
- 家族 妻、息子二人(幼い頃は、子連れて議会通いをしました。)

